

平成29年度 いばらき輝く教師塾

茨城県教育研修センター

第3日 10月14日(土)

<講義> 人権尊重の視点に立った学校づくり

講義資料



茨城県教育研修センター教職教育課
指導主事 齋藤 亮一郎

【要旨】

- ・人権教育を進めるに当たっては、「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」が基本となっている。
- ・人権尊重の理念は、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」である。教職員は、「知的理解」と「人権感覚」を身に付け、人権教育を推進していかなければならない。
- ・人権教育は、教育活動全体を通して培っていくものである。教育活動全体を通じて、人権尊重の精神に立った学校づくりを進めていかなければならない。
- ・法務省人権擁護局が示している17の人権課題を確認し、日頃から人権感覚を高めてほしい。

<講義> 魅力のある輝く学級づくり

講義資料



茨城県教育研修センター教職教育課
指導主事 眞崎 恒一郎

【要旨】

- ・学級づくりにおいては、学級経営の意義や内容を理解し、学級経営案を作成することが必要である。
- ・学級経営で特に大事にしたいことは、児童生徒の個性を認め、望ましい集団を育成することである。そのために、児童生徒一人一人のよさを見出し、支持的な雰囲気醸成に努めなければならない。
- ・まずは、児童生徒、保護者から信頼される教師であることが必要不可欠である。日頃から人間としての資質・能力を高めていくことが大切である。

＜ワークショップ②＞ 人権尊重の視点に立った学校づくり



＜ワークショップ③＞ 魅力のある輝く学級づくり



塾生のアンケートより

- 人権教育については、普段何気なく行っていることが人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動であることを知り、日頃から人権尊重を意識して行動することが大切だと思った。【学生】
- 生徒の人権感覚を育てるためには、教師自身が人権に対する意識を高め、生徒に見本を示せるようにならなければいけないと思った。【学生】
- ワークショップで行ったコラージュは、自分のよさに気づき、多様性を認識できる活動だった。【学生】
- 学級づくりの講義で、「指導する内容や状況に応じて、個別に指導するか、集団を指導するかを判断することが大切」という所が大変参考になった。【若手教員】
- 魅力のある学級づくりをしていくには、教師が子どもたちを信頼することが大切だということを再認識した。【若手教員】
- 学級づくりのワークショップを通して、自分が目指したい教師像がより明確になった。【学生】
- ワークショップでは、自分にはなかった考えや、今まで気付かなかったことなどを知ることができ、教育に対する考えを広げたり、深めたりすることができた。【学生】